

BLSO プロバイダーコース
in 日本医科大学多摩永山病院 2016

主催：南多摩医療圏災害医療ワーキンググループ

共催：NPO 法人 周産期医療支援機構

日時：2016 年 11 月 20 日（日） 8:50～17:30（*8:30 より受付）予定

定員：24 名（公募なし）



●BLSO プロバイダーコース：

交通事故などの妊婦外傷を含む病院前の産科救急的対処を強調した、特に産科救急に突然遭遇する可能性がある救急医、救急看護師、そして救急救命士を対象とした教育コースです。

産科救急医療は、産婦人科医だけではすでに成り立たない状況になりつつあることは周知の事実です。そこで、主に病院前産科救急を想定して、ALSO^{※1}の前段階の産科救急基礎コースとも言えるトレーニングコースがおこなわれるようになりました。それが、BLSO (Basic Life Support in Obstetric) コースです。

日本では 1 年間に 734 件の施設外分娩事例が救急隊に収容されています（2010 年全国消防本部アンケート調査）。外傷などで ER に搬送される妊婦も珍しくありません。さらに東日本大震災では、母体搬送要請は 5 倍に、病院前分娩は 3 倍に、低出生体重・早産児が 2 倍に、0 歳児の致死率は 277 倍にもなったという結果がでています。災害医療においても、分娩に関わる医療者のスキルアップと医療プロバイダー拡充の必要性が指摘されているのです。

BLSO プロバイダーコースでは、講義 & 少人数グループによるワークステーションで妊婦の評価、分娩介助、分娩第 3 期の処置、肩甲難産、産後大出血の対処、新生児の処置・蘇生法、車中分娩などを実践します。

筆記試験とマネキンによる実技試験がコースに含まれており、試験に合格した場合、American Academy of Family Physicians (AAFP—米国家家庭医学会)、ALSO-Japan が認定する 5 年間有効な認証を受けることができます。

※1 ALSO とは

ALSOとはAdvanced Life Support in Obstetricsの略で、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースです。1991年に開発され、1993年にコース権利はAmerican Academy of Family Physicians (AAFP—米国家家庭医学会)によって認可されました。現在全米では多くの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOの受講を義務づけられ、2009年時点で、63ヵ国以上でプロバイダーコースが開催され、15万人以上がALSOコースを修了しました。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、約4,400名がALSOコースを修了しました。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、医学部生、そして救急救命士などであり、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。

問い合わせ先：

日本医科大学多摩永山病院

住所：〒206-8512 東京都多摩市永山1-7-1

TEL / FAX：042-371-2111

担当：山岸 絵美（やまぎし えみ）

鈴木 健介（すずき けんすけ）